

9月は疾病に気をつけよう

9月は酪農家の皆さんにとって、最も牛群管理が難しい月ではないでしょうか。暑さがやわらぐこの季節は暑熱に耐えた牛たちが病気になる季節ともいえます。

体細胞数の上昇

図1は釧路管内V町の体細胞数と気温の関係を示したグラフです。6～8月は気温の上昇にともない体細胞数も増加します（図1①②）。

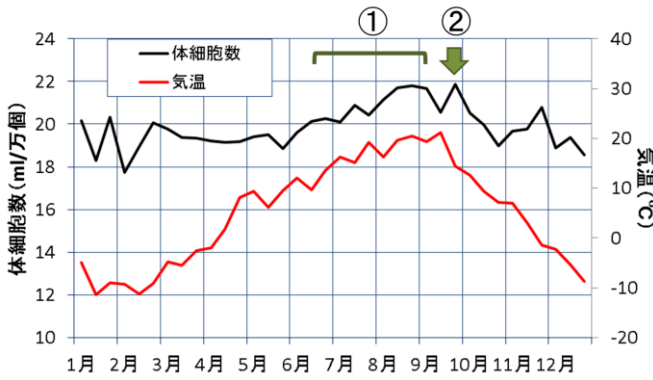


図1 体細胞数と気温の関係(2012年アメダス)

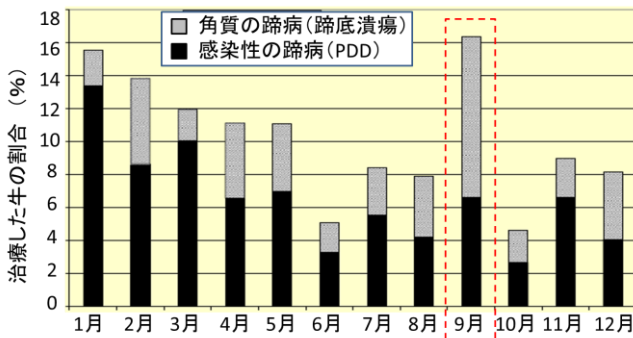


図2 牛群の跛行治療率に及ぼす季節の影響

蹄病の増加

注目すべきは、9月下旬に再び体細胞数が増加していることです（図1②）。これは7～8月の暑さで、免疫が低下した牛群が少し時間をずらして乳房炎に罹患した現象でしょう。過去3ヶ年においても9月下旬～10月上旬に体細胞数の上昇が確認できます。

蹄病による治療と季節の影響をみると、PDDのような感染性の蹄病が1～4月に

周産期疾病の増加

増加するのに対し、蹄底潰瘍は9月に多発する傾向があります（図2）。蹄底潰瘍は、発生原因が「2ヶ月前」にあることが報告されています。これはアシドーシス等により、蹄表皮の角質形成不全が外部に表れ、痛みだすまでに2ヶ月かかることを意味し、夏場の蹄管理に関係しています。

7～8月に分娩を終えた牛が、9月にケトosisや第四胃変位が多発します。夏場に乾乳にした牛群の密飼い、水・栄養不足、過肥などが原因と考えられます。

粗飼料の低品質・給与不足

昨年最後に収穫された刈遅れの1番草や、2番草のみの給与になりがちなのもこの時期です。また、放牧草の再生も遅くなるため乾物摂取量が低下する時期でもあります。ビートパルプやラップサイレージの併給を検討しましょう。

9月に治療牛が少ない農場は、7～8月にしっかり対策を講じた農場です。また、潜在的に問題となっていた乳房炎・蹄病・周産期疾病がこの時期に明るみになることが多く、発生する病気は各農場で異なります。

すべては、『暑熱による粗飼料摂取の低下によるアシドーシス』、そして『肝機能低下による免疫機能の低下』が原因です。9月に向けた対策と疾病の早期発見・早期治療を心がけましょう。

夏場のチェック!!!

- ① 水は飲んでいますか？
- ② 暑さを防ぐ対策をとっていますか？
- ③ 良質粗飼料を確保していますか？
- ④ 給与回数・時間の工夫をされていますか？

(平成二十五年八月作成)